



協働イベント「わくわく湧水 ハンノキ林作業の日」盛りました

ハンノキが好む湿地環境を回復するために、ハンノキ林の堆積土を除去し、地下水位が上昇すると湧水が溜まる窪地を掘っています。窪地は園路を流れる雨水が池に直接流れ込むのも防いでいます。

梅雨や台風の季節に大雨が降るとハンノキ林に地下水が湧いてきます。2025年は少雨により冠水しませんでした。2024年は梅雨の季節から地下水位が上がり、6月から半年ほど窪地に水が溜まった状態が続きました。

協働イベントとして湿地の整備を実施しており、7年目を迎えました。2025年度の2回のイベントには延べ46名が参加しました。窪地を掘る土掘りと、草地を守る“しがら柵”作りを行い、参加者それぞれが希望する作業に参



加しました。たくさんの参加者のがんばりにより、広い範囲の堆積土を取り除くことができました。しがら柵の材料には公園内の剪定枝を活用しました。朽ちた材を取り除き、新たに設置した杭に長い枝を絡ませて編んだ柵はとても美しく、参加者も大満足の出来でした。

窪地が掘がったことで梅雨や台風の季節に冠水するか、とても楽しみです。



ハンノキ雄花



きれいに編めて楽しい♪



湧水が出るといいなあ

ハンノキ



東京都レッドリスト (北多摩)

絶滅危惧 II類

ハンノキ林再生の取組とは?

ハンノキは地下水位の高い湿潤な場所を好む落葉樹です。井の頭池周辺でとくに多く分布しているお茶の水池付近のハンノキ林では、公園としての利用が進む中、土砂の堆積や踏み固めによる乾燥化が進んでいました。周辺樹林の高木化による日照不足もあって、ハンノキの若木が育っていませんでした。

2018年の台風で多くの老齢ハンノキが倒れたのを機に、湿地環境を取り戻しながら、多様な生きもののすみかとなるハンノキ林を再生する取組が始まりました。

ハンノキ林の動植物

お茶の水池付近のハンノキ林では、2018年の台風で多くのハンノキが倒れてから、倒木や切り株から次世代のハンノキが成長しています。また台風による倒木や、その後の管理作業によって日光が差し込む明るい林床環境が保たれた結果、種子からの芽生えも好調です。大きなものでは樹高が8m近くまで育ちました。

また、台風によって老木が減り日照が回復したため、明るい草地・湿地を好む植物が生育するようになりました。

ヒガシニホントカゲ

絶滅危惧II類、東京都北多摩

春から秋、トカゲ類がしから柵で日向ぼっこしているのを見かけます。

コムラサキ

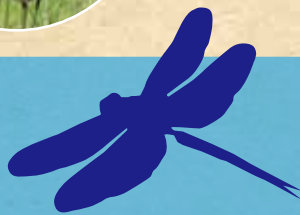
ニホンカナヘビ

絶滅危惧II類、東京都北多摩

キツネアザミ

見られるとうれしい☆

湿地に棲む生きもの



ハンノキ林の窪地に湧水が溜まると、透明な水が揺らめく美しい風景が見られます。水辺に棲む生きものがやって来て、いつもとは違うハンノキ林が楽しめます。もともとハンノキは湿った場所に生える樹木です。雨の恵みで台地が潤い、ハンノキもすくすく育ちます。2026年は雨がたくさん降って地下水位が上がり、湧水に満たされたハンノキ林が見られるでしょうか。



窪地に湧き出した地下水 (2024年9月)

ハンノキ萌芽株

伐採した倒木の切り株から新しい芽が生え、切り株が朽ちた後もすくすくと育っています。



カトリヤンマ



ニホンイシガナ



アオモンイトトンボ